

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム さくら (2階ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100096		
法人名	(株) ブルーム		
事業所名	グループホーム さくら (2階ユニット)		
所在地	〒026-0055 釜石市甲子町5-2-4		
自己評価作成日	平成 26 年 1 月 9 日	評価結果市町村受理日	平成26年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0391100096-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と利用者様との関わりを大事にする。
安心して過ごして頂けるよう、医療機関との連携をとり、ご家族への報告を欠かさない。
旬の食材や料理で季節を感じて頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営に当たっては、法人代表の社会福祉に対する熱意を理念として掲げており、「住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域とのかかわりを大切に支援する。高齢者の尊厳ある生活を重視し、生きがいと喜びを持った穏やかな生活を大切に。」という理念の実践に向けて取り組んでいる。開所して1年と間もないが、町内会に加入しており、春秋の町内の除草、盆踊り、運動会等町内会の行事に積極的に参加し、地域の一員として交流を深めている。また、自らは地域住民を招いて夕涼み会を開催して親睦を深める一方、広報を発行するなど事業所の知名度向上にも取り組んでいる。火災や地震、水害等に備える防災対策としては、町内会と地域協定を結んでおり、町内近隣住民の参加を得て、春秋2回の総合防災訓練を実施している。また、総合防災訓練の講評結果をすぐに運営に反映させるなどその取り組みは先進的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム さくら (2階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲げ、常に意識するように努めております。	理念は、ホームの代表が開設に当たり福祉に対する熱意を文章として纏めたものである。事務室に掲示し、毎日、午後に関催するミーティングで管理者・職員で復唱し、確認しながら実践に向けて取り組んでいる。	理念が長文だと職員の理解と共有、実践も難しくなる。理念は理念として、理解しやすい簡潔な目標設定などチームでの話し合いを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に交流しています。地域の方々には、施設行事に参加して頂き、利用者様は、地域行事に参加させて頂いておりますが、こんごさらに深めていきたいです。	自治会に加入しており、町内会だよりが毎月届くほか、春秋の清掃活動、盆踊り、運動会に職員と利用者が参加し、ホーム行事の際には、町内に職員が案内を配り夕涼み会、年2回の消防訓練などに参加を得るなど、ホームの理解を得ながら積極的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会や行事での交流の場を通じ、理解を深めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ1回目の開催ですが、事故報告やヒヤリハットをすべて報告し、1年間どのような活動をおこなってきたか、報告し、意見を頂いた。報告は、しっかりと行っていきたい。	開所時より2ヶ月に1回の開催で計画していたが、実施できず12月に第1回目を開催している。行事や利用状況、消防訓練の実施報告や、質疑応答が行なわれたが、今後は2ヶ月ごとに開催し、会議の有意義な活用に取り組んでいきたいとしている。	会議の必要性、委員の役割を理解し、委員から意見・アイデアを引き出し、サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事や推進委員会のご案内の際や入居者さまのご訪問の時など、その時々で包括や権利擁護の方と連絡をとらせて頂いております。	地域包括支援センターの担当者は運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の状況を理解してもらっている。また、行政の各担当とは認定調査や生活保護対象者の日常の生活面で連絡を密に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修が実施され、身体拘束をしないケアに努めております。しかし、理解不足の面があり、もっと理解を深める必要がある。	本社の研修委員会で、身体拘束について年1回全職員を対象に研修し、言葉の拘束については、接遇研修を年2回実施し、職員間で注意あいながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修が実施されておりますが、もっと、職員一人、一人の理解が必要		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている入居者様に支援員の訪問を頂いておりますが、個々の職員の理解はまだ不十分と感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に介護支援専門員が、契約書の読み合わせをしながら、説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から、意見や要望が出た場合は、解決のために職員で話し合い、ご家族の代表に運営推進委員になっていただき、話し合いに参加頂いています。	利用者からは日常生活の関わりの中で把握に努め、家族については行事や面会時等をその機会としている。職員の言葉遣いや対応面での目配り、気配りの大切さについて職員で話し合い、改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの時に、意見や提案を話せる機会がある。月1回、管理者が社内」の運営委員会に参加して発言の機会がある。	毎日の申し送りで提案を聞く機会をつくり、利用者同士のトラブルを避けるため座席の配置、清拭のタオルの保管場所など改善して運営に活かしている。必要によっては、毎月開催される本社の会議に提案し、改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のリフレッシュのためや、親睦を深めるために、年2回のレクリエーションで交流しています。又、会社の施設内で年2回程の親睦会、その他外部での親睦会が年に数回おこなわれております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、社内研修の他実践の為の技術研修が実施され、個々にスキルアップの機会がある。なるべく多くのスタッフが出席できるようにシフトの調整をしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	改めて交流はまだ、ありませんが、外部研修に参加した時に意見交換出来る機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が上手く表現できないところは、前任の介護支援専門員に尋ねながら、本人との関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が要望や意見を遠慮なく言えるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が、求められる支援を見極め、必要な備品をそろえ、スタッフに周知し、支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクレーションや、体操、時には調理を共同で行い、常に言葉を交わす努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調不良やアクシデント、必要物品やその他、必要に応じて、ご家族と連絡を取らせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じ馴染みの美容院へ同行したり、以前、通所していた施設に訪問したりしております。	入居前に利用していた施設の職員や近所の友人の訪問があるほか、理美容院の馴染みもある。また、買い物に同行するスーパーや商店、2・3ヶ月ごとに訪問を依頼している理美容院など新たな馴染みもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状況を理解し、衝突や、孤立をしないように、間にはいり、支える努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところ、退所者1名、同会社の別施設に移られたので、訪問しておしゃべりしたり、入居者様とも面会にいきます。。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や様子観察に気を付け、ご本人の思いが汲み取れるよう努力し支援に努めています	普段の会話や趣味活動、買い物などで表情や行動を観察し、個別支援となる散歩や入浴ではできるだけ利用者の希望や思いを聞くようにし、困難な場合は、家族や友人からも聞くようにして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の暮らしの中で安全を考慮しながら、ご本人の気持ちに添えるよう努力しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りを行い、心身状態の変化の把握をし、状態に合わせて支援、見守りを行っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを行い、状態の変化やケアについて話し合い、目標を考えていますが、内容が不十分だと感じております。	入居時に要望を聞いて暫定計画を作成し1ヶ月ごとに、居室担当が中心になって全職員で評価、ケアカンファレンスを行い計画の見直しを行なうとともに、利用者、家族に説明し意見交換して現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫について、感じていてもきちんと記録されていないことが多く、情報の共有は、努力はしているものの、実践に活かされていないと感じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズについては、可能な限り気持ちに添えるよう努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後、良い関係を作って行きたいと思っておりますが、現在まで、出来ないでおります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医の月2かきの往診、必要に応じて歯科の往診と専門医への通院を行っています。	内科と歯科は協力医があり、内科は月2回の往診、歯科は必要に応じた往診がある。その他はかかりつけの専門医での受診となるが、職員が同行し結果を家族に報告している。また、希望によるかかりつけ医の変更もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ファミリークリニックの看護師さんに身体的変化が現れたときは相談したり、先生の指示に繋げて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ、入退院の実績はないが、関係作りはしていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所で出来ることの説明を行っていますが、意外は体調変化の報告で特に終末期の方針についての話し合いはまだ行ったことが有りません。	契約時に、家族の希望により職員・家族・医療と情報を共有し相談しながら対応することを説明しているが、まだ、看取り経験はない。訪問医との連携で点滴までは対応できる体制があるが、現状は、医療が必要となれば入院している。	将来的には、職員の研修、看護師の配置など支援できる環境を整備充実して積極的に対応していきたいとしており、今後の取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	大多数の職員が消防署の行う救急救命の講習を受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域協定を結んでおり、緊急時には、町内会の役員様に緊急通報されます。	町内会と地域協定を結んでおり、自動通報設備により町内会役員にも通報される等体制が整えられ、年2回の消防訓練には町内の近隣班に案内を配り、参加を得て実施している。ホーム独自では毎月、通報、階段器具の使用訓練など繰り返し実施し安全に避難誘導できるよう手順を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を付けて対応しているつもりですが、完全とは言えず、もっと細かい配慮が必要です。	人生の先輩として敬意を払い、その人の生活のリズムを把握しながら、入浴支援の着脱では羞恥心に配慮し、トイレの誘導では周囲に気を配り自尊心を傷つけないよう、声かけでは職員同士でも注意しながら支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で決められるよう気を配っておりますが、もっと一人、一人が遠慮なく自己決定出来る雰囲気作りが必要です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で動かないように気を付けているつもりですが、いつの間にか職員に合わせていると気が付くことがあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方はご自分で洋服を選び、マネキュアをしたり、パックをしたり、おしゃれの支援をしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々ですが、出来る方は、野菜の皮むきや団子個ね、料理の味付けや片付けを職員と一緒にしております。	買い物に利用者も同行し食材を選んだり、希望や体調に合わせた献立の工夫、プランターの家庭菜園や皮むきなど調理でできることを通して楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食前の嚥下の為の発生練習を日課にし、野菜をたくさん取り入れバランスの良い食事に心掛け水分補給に気を配っております。個人に合わせ、分量、切り方など変えております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は必ず、ご本人の力に合わせ、促しや介助で。口腔ケアを実行しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便、排尿のチェック、やトイレ誘導に努め、排便コントロールに気を配っております。	排泄チェック表を作成し、表情や動きなどを観察し周囲に配慮しながら声がけ誘導により、バットの大きさが変わったり紙おむつからリハビリパンツに改善された利用者がある。なお、コール、手すり、暖房設備を備え車いすも利用でき安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂取し毎日、少しずつでも体を動かせるように心掛け、職員も一緒に動いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各自の入浴日は決めておりますが、状況によっては、いつでも出来る状態です。	午後からの入浴で週2回としているが、希望に応じて3回入浴する人もある。個浴で、衣服の着脱時は、利用者の不安や羞恥心に配慮し、希望により同性介護で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないようにしていますが、夜眠れなかった方は昼に仮眠をとって調整し、疲労度により、横になって頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時や、増えた時など、職員一人、一人が解るように、連絡ノートに書き、周知徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事は行って頂き、生活に張りが出るように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ散歩、好きな方は草取などを行い、気分転換を図っております。	日常は、近くの洞泉駅やグランドゴルフ場まで散歩をしたり、食材の買い物でスーパーに出掛けている。花見や紅葉の季節にはドライブを兼ねて遠出し、家族の協力でお盆のお墓参り、外泊、理美容などに出掛け、楽しみや気分転換につなげるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、お金の所持はしていませんが、遠足ではご自分で選んで買い物をしたり、出来る方は、職員付き添いのもと、時々買い物に出かけ自分でお支払をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話はもちろん、入居者様より電話の申し出があったときは、直ぐにおつながっています。手紙は今のところありませんが、年賀状は希望者を募り職員が一部代筆して投かんしました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や光を調整して、居心地良い環境になるよう気をつけております。行事に合わせた飾り物を飾り、季節を感じられるよう配慮しております。	事業所は2階建てでエレベーターと階段があり、1階ユニットと2階ユニットに分かれている。平面的間取りは同じで、内部も建物周りが耕地のため遮るものもなく明るい。カウンターが低く出入り自由の厨房と一体感のあるホールには、テーブルのほかにソファや大型のテレビが設置され、小正月行事の水木団子や塗り絵、行事写真や習字を飾り季節感を演出、居心地の良い空間づくりの工夫と配慮がなされ安心感のある場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲み、ソファでくつろいでいる。座りきれないときは、食堂の椅子を並べて集まっております。独りになりたい時は居室に行ったり自由にされてます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好みの置物を飾っている方もいらっしゃいます。職員は換気や掃除をし常に清潔な居室ですごせるよう、しえんしております。	押入れを取り付けベッド、タンス、エアコンはホームで設備している。利用者はテレビ、家族の写真、小物入れ、時計、位牌などを持参し飾り付け、職員と一緒に掃除をし清潔を保ち、安心して暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どの居室からも比較的にトイレが近く廊下に手すりがついているので可能な方は、自立支援につとめ、見守りに気をつけております。出来る方は自分で洗濯ができるよう、使い勝手をよくしております。		